

第3章 基本的な考え方と目指すべき姿

1 指針の位置付け

本指針は、本市の最上位計画である第6次大府市総合計画の将来都市像「いつまでも住み続けたい サステイナブル健康都市おおぶ」の実現のため、大府市地域包括ケア推進ビジョンなどの関連計画と整合性を図り、相互に連携して施策及び事業を推進します。

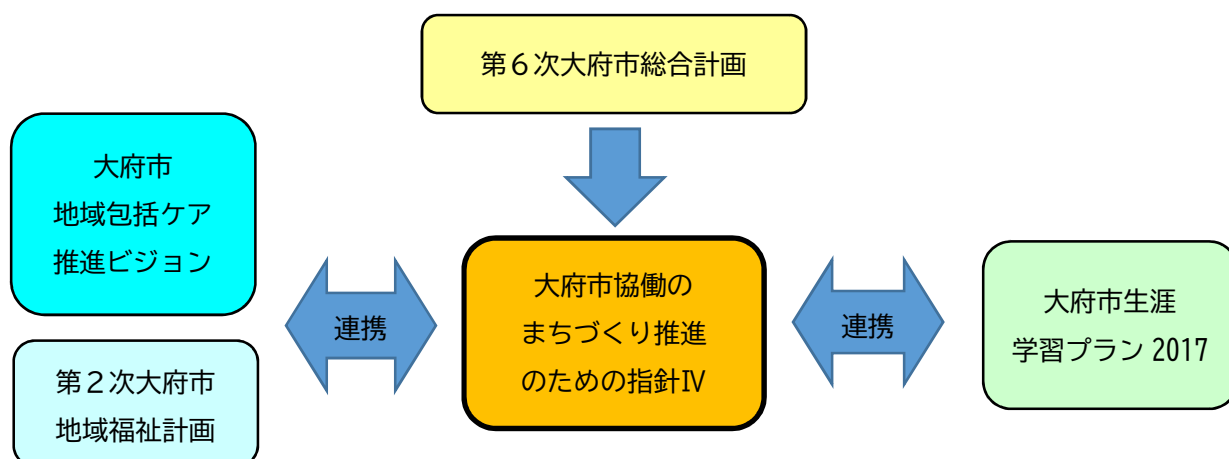


図 13 指針の位置付け

2 基本原則

協働により、共通の目的を達成するための基本的な考え方は、次のとおりです。

1. お互いの自主性や自立性を尊重すること。
2. 相手の特性や役割を理解し、尊重すること。
3. 共通する課題や社会的目的の実現のために、それぞれが独立、自立した存在として、協働を進めていくこと。
4. 公正性や透明性を保ち、互いの情報を積極的に公開し、共有すること。

3 基本的な考え方

(1) 「学び」と「かかわり」によるきっかけづくり

本市は、公民館を始め、いきいきプラザ、児童（老人福祉）センターなどの地域施設が充実しています。各施設では、様々な講座やイベントを開催し、市民への学習機会を提供しています。また、団体の育成にも取り組んだ結果、令和2年（2020年）4月1日現在では、公民館で活動する団体は400団体を超え、約23,000人の市民が生涯学習活動を行っています。

大府市生涯学習プラン2017の基本理念の中で、「より文化水準を高めるだけでなく、個人の活動から地域での活動への移行を促し、より地域力の高い都市になること」と掲げています。

協働のまちづくりを推進するためには、多くの市民が日頃から生涯学習活動と、社会参加を実践している本市の強みを生かして、学習成果が地域に還元され、地域課題解決につながるという好循環を育む必要があります。

地域においては、地域住民が主体となって、防犯パトロール、交通立哨、ごみゼロ運動、河川清掃、防災訓練などの様々な活動が行われています。これらの活動や地域でのイベントを通して、自治区やコミュニティなどの地域組織にかかわることで、加入のきっかけとなった例もあります。また、施設の利用団体の一員として、公民館や児童（老人福祉）センターなどのイベントに参加、協力したり、福祉や健康をテーマとしたイベントなど、お互いに共通の目的を持つ団体などが参加したりすることが、新たなかかわりの機会になっています。

このように「学び」と「かかわり」により、地域活動を進める市民や団体が、参加や体験を通じて、共感し、相互理解を深めることが、協働のまちづくりを推進するきっかけとなります。

(2) 「自分ごと」意識の醸成

市民一人ひとりが、自らの住む地域に様々な世代や立場の人がいることを知ることで、どのような課題を抱え、何が必要か、自分に何ができるかを考える、「自分ごと」の意識が生まれるきっかけとなります。「自分ごと」意識を醸成するためには、世代や立場を超えた市民同士の交流の場や機会を提供する必要があります。市民にとって身近な施設である公民館、児童（老人福祉）センター、市民活動センター（コラビア）の活用促進を図るとともに、居場所としてのサロンや子ども食堂などの充実が求められています。

(3) 多様な主体のつながりづくり

現在、市内で活動している市民や団体の中には、活動を継続するための資金や人材の確保など、共通の課題を抱えている場合があります。課題解決や目的達成のためには、共通の目的を持つ団体同士で、協力したり、相互に補完したりすることも有効な手段の一つです。そのため、多様な主体とつながりづくりを進めることが求められます。つながりづくりの一例として、市民活動センター（コラビア）を中心にマッチング⁹事業を展開していますが、公民館などの地域施設においても自治区・コミュニティ、団体、事業者をつなぐ役割があり、様々

⁹ 結びつけること。

な機会を通して、相互の連携を図る取組を実践しています。現在、ICT¹⁰技術を活用した Facebook (フェイスブック)¹¹、LINE (ライン)¹²、Twitter (ツイッター)¹³などが普及していますが、これらを用いた新たな情報発信やつながりづくりの手法を取り入れていくことも有効な手段です。

(4) 資源を生かした地域づくり

地域では、市民、自治区・コミュニティ、NPO・ボランティア、事業者など多様な主体が担い手として日々活動しています。また、それぞれの地域には、継承されている伝統行事やまつりなど、固有の資源があります。これらの地域資源を地域課題の解決に活用するだけでなく、資源を掘り起こし、守り、育てることも、協働で地域づくりを行うきっかけの一つとなります。地域のことは地域全体で考え、行動するためには、これまでつながりのなかった担い手同士が、相互に情報や課題を共有し、持続可能な視点で、地域づくりを進めることが必要です。

(5) 住み続けたくなるまちづくり

住みたくなるまちとして選ばれる主な理由として、住み慣れていることや、買い物や通勤・通学などの利便性が高いことなどが挙げられます。これからのまちづくりを進めるためには、利便性の向上を図ることも重要ですが、持続可能なまちづくりのためには、地域活動や生涯学習、スポーツなどの活動をきっかけとして、より多くの人がかかわり、相互に助け合い、幸福感を感じることができると、住み続けたくなるまちづくりを進めることも重要です。

10 情報処理・情報通信分野の関連技術の総称で、information and communication technology の略称

11 世界最大のソーシャルネットワーキングサービス (SNS)。SNS は人と人との社会的な繋がりを維持・促進する様々な機能を提供する、会員制のオンラインサービス

12 スマートフォンなどで短い文字メッセージの交換や音声通話、ビデオ通話などができるアプリ及びサービス

13 今していること、感じたこと、ほかの利用者へのメッセージなどを「つぶやき」のような形式で 280 文字 (日本語など 140 文字) 以内の短い文章にして投稿するスタイルのブログサービス

4 「共存」と「協働」で目指すまちの将来像

私たちが暮らす地域には、乳幼児、高齢者、学生、働いている人、健康な人や健康がすぐれない人など様々な立場の人が生活しています。

同じ地域の中で、人々がお互いの考え方や行動の違いを認め合い、存在することが「共存」です。その中で、特性を生かしながら、共通する課題や目標を達成するため、様々な観点や形態で、協力し合うことが「協働」です。

地域で暮らす中では、だれもが、支えや助けを必要としたり、支える立場や助ける役割を担ったりすることがあります。

この「共存」を基本とした「協働」の理念をもとに、市民、自治区・コミュニティ、NPO・ボランティア、事業者がつながり、地域が一体となって住み続けたい地域づくりを進める「持続可能な地域共生のまちづくり」を進めます。

目指すまちの将来像

学びとかかわりにより、まちづくりを「自分ごと」として捉え、多様な主体が
つながり、地域資源を生かした住み続けたいまち

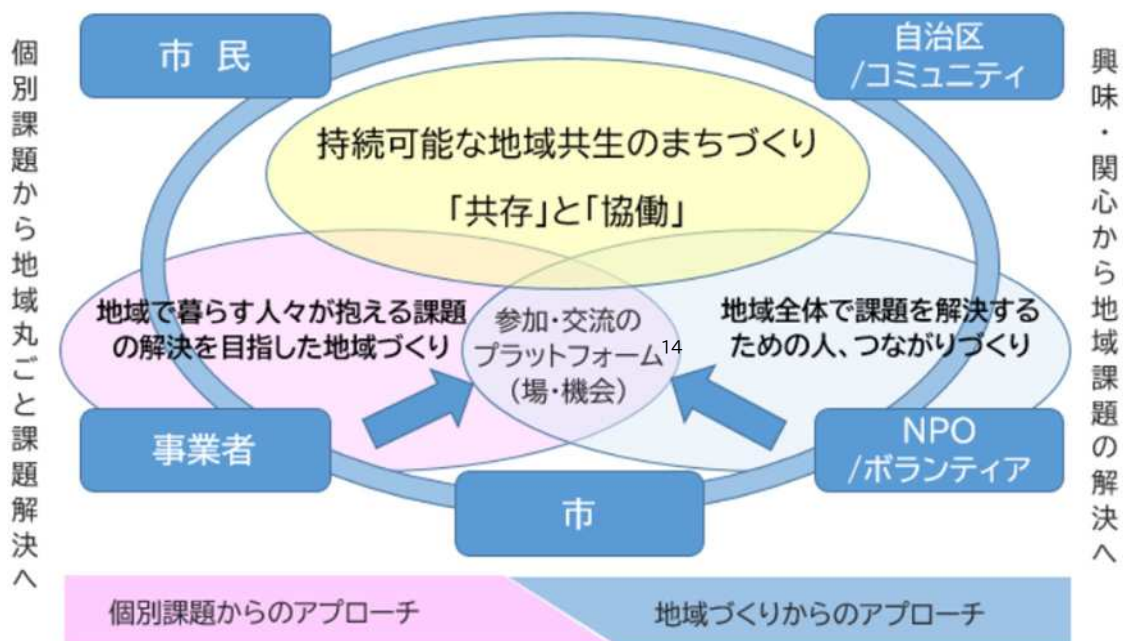


図 14 「大府市協働のまちづくり推進のための指針Ⅳ」が目指すまちの将来像

14 市民、自治区・コミュニティ、NPO・ボランティア、事業者、市などの協働と参画を推進するために、多様な主体が連携・交流できる拠点